

平成 25 年 3 月 29 日

雲 仙 市

担当課	観光物産まちづくり推進課
担当者	主査 前田 祥平
電 話	0957-38-3111
F A X	0957-38-3514
メー ル	suishin@city.unzen.nagasaki.jp

劇場用映画「人の望みの喜びよ（仮）」の 雲仙市ロケについて（お知らせ）

このことについて、下記の日程で雲仙市内において、雲仙市ロケが行われますので、お知らせいたします。

なお、プロデューサーである三好保洋氏（雲仙市国見町出身）は、今回の映画撮影をするに当たり、撮影場所を模索していたところ、地元雲仙市をPRしたいとの思いが強くあり、今回雲仙市でのロケとなりました。

- 1 ロケ期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 4 月 10 日まで
- 2 ロケ場所：雲仙市みずほすこやかランド、神代小学校 ほか
- 3 タイトル：劇場用映画「人の望みの喜びよ（仮）」（90 分長編映画）
- 4 主 演：大森 絢音（子役）
- 5 監 督：杉田 真一
- 6 制 作：テトラポット 代表 三好 保洋（雲仙市国見町出身）
- 7 あらすじ：震災によって突然両親を奪われた姉弟の、その後の物語。

いつもと同じように夜が明けはじめた街を突然、大きな揺れが襲う。主人公、姉と弟の家は倒壊し、家族は生き埋めになってしまう。姉は何とか自力で這い出し、弟は近所の人たちの助けもあり怪我は負ったものの救出される。

しかし、両親は下敷きのまま。更に近くで起こった火災がどんどん迫り、ついに飲み込まれてしまう。姉の目の前で。弟は気を失っていたため、両親の死のことを知らない。まだ小さな弟を気遣って、親族たちは両親の死は時期が来るまで秘密にしておこうと決める。

姉はまるで自分が両親を殺してしまったかのような罪悪感と、弟に対する秘密を同時に背負う。その後、姉弟は母の実家に引き取られていく。新しい家族、新しい街、新しい家、新しい学校。気持ちを整理などをする時間もきっかけもないまま新しい生活が始まる。事実を知らされていない弟は日に日に亡き両親への想いを募らせていく。それは知らずも姉を追い込んでしまうことになる。普通の子どもが子どもでいられなくなった時、彼らは何に希望を見出し、そして生きていくことができるのか。

- 8 担当責任者：三好 保洋（090-4983-6517）

※撮影場所、撮影時間等についてのお問い合わせは、三好氏にお願いいたします。